

CONTENTS

- P1 令和5年度 第42回 全国警察逮捕術大会
山陽特殊製鋼株式会社様よりご寄付賜る
- P2 令和6年 警視庁警備部武道台式
- P3 さっぽろ雪まつり警備(北海道警察)
Member's Lounge「誰ひとり取り残さないデジタル改革を目指して」若宮正子氏

発行所 一般社団法人
機動隊員等を励ます会
〒103-0025 東京都中央区
日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館
発行人 中村 真一
TEL 03(5614)0710
FAX 03(5614)0719
http://www.hagemashi.com
jimukyoku@hagemashi.com

令和6年
4月号

はげまし

For the Riot Policemen
& Members

— No.573 —

令和5年度 第42回 全国警察逮捕術大会



総合対処法展示訓練

い。すべての選手の健闘を称えたい。さて、逮捕術

の試合は定められたルールのもと、1対1で行われるものだが、実際の現場では複数の警察官が連携して対処しなければならぬ場面や単独で複数の犯人と相対することもある。また刃物などの凶器を持った犯人と対峙した場合であっても怯むことなく逮捕に当たらなくてはならない。そこで警察庁ではどのような事態でも適切に対処できるよう、現在総合対処法訓練を強力に推進しているところであり、装備資機材の活用方法を含めた実践的な対処能力の向上を図っているところである。

とともに、制圧・逮捕の現場においては周りに必要な指示を行う指揮官としての役割を果たせるよう、さらに研さんを積むことを期待する」と述べた。

不断の訓練の成果を競う

去る2月9日、全国警察逮捕術大会が警視庁術科センターにて開催され、全国の都道府県警察および皇宮警察から選手約540名が

参加した。なお、1月に発生した能登半島地震において捜索活動を続けている石川県警察は参加を辞退した。逮捕術とは、犯人を迅速かつ確実に制圧するための技術で、日頃から厳しい訓練が行われている。大会は、都道府県警察の規模で第1部・第2部・第3部に分けて団体戦が行われ、「徒手×徒手」「先鋒/女性警察官」「警棒×警棒」「次鋒/女性警察官」「警棒×警棒×警棒」(大將)等の種目で勝敗を競った。

優勝した。閉会式の挨拶で大会副会長の楠芳伸警察庁次長は「選手諸君の正々堂々、気迫あふれた試合の数々により、盛会のうちに終了できたことは誠に喜ばしい限りである。優勝した所属に対し、心からお祝い申し上げるとともに参加したすべての選手の健闘を称えたい。さて、逮捕術

決勝の開始前には、警視庁機動隊の実演による総合対処法展示訓練が行われた。そして優勝をかけて白熱した試合が展開された結果、警視庁(第1部)、茨城県警察(第2部)、和歌山県警察(第3部)が優勝した。



警棒×短刀



警棒×警じょう



第1部表彰



徒手×徒手

← 今月の賛助広告会員 →

- 明鋼材(株)
- 新ケミカル商事(株)
- 日鉄ステンレス(株)
- (株)メタルワン
- 合同製鉄(株)
- (株)佐藤ホールディングス
- 日鉄エンジニアリング(株)
- (株)ミック

山陽特殊製鋼株式会社様より
ご寄付賜る

山陽特殊製鋼株式会社様より創業90周年を機に社会貢献の一環として50万円のご寄付を頂戴いたしました。今後、機動隊支援のための資金として活用させていただきます。ありがとうございます。

(励ます会事務局)

令和6年 警視庁警備部武道始式

当会理事長が 来賓として祝辞

去る1月26日に警視庁警察学校(東京都府中市)にて警視庁警備部武道始式が行われた。来賓として当会中村真一理事長と伊澤昭則常任理事が出席し、閉会式にて中村理事長が祝辞を述べた。

柔道と剣道による武道始式は、高段者が競い合う「部内本部高点試合」と機動隊の「武道小隊対抗」で行われた。

柔道武道小隊対抗決勝



部内本部高点試合では、柔道打ち止め賞を警衛課渡邊将斗氏、剣道打ち止め賞を警衛課藤井和正氏がそれぞれ受賞した。武道小隊対抗は、柔道では三機と七機、剣道は一機と五機が対戦。どちらも白熱の展開となり、結果は柔道が三機、剣道が一機の優勝となった。

なお、決勝戦前には女性機動隊員による合気道演武、また第五機動隊警視庁空手道部による空手道演武が披露された。

閉会式で当会中村理事長は

「皆さんの気合溢れる試合、凛々しく力強い演武に感動した。昨年は3年半にわたるコロナ禍の回復のなかで、G7広島サミットをはじめ、東京マラソン、広島平和記念式典、花火大会等、警視庁機動隊の皆さんが中心となって役割を全うされ、万全の警備を遂行された。そして今年、年初から能登半島地震への対応もある。今後とも情勢不透明な状況は拭い去れないと思うが、様々な重要事案に対して皆さんが任務を全うされることを期待している。

私ども機動隊員等を励ます会

は、昭和47年のあさま山荘事件で治安維持の最前線で献身的に活動されている機動隊員の皆さんを純粋に民間の立場で激励・応援しようという有志が集まって、昭和49年に設立された。今年で50年を迎える。次の50年も微力ではあるが、激励・応援していく」と祝辞を述べた。

公務で欠席された聖成警備部長に代わり謝辞を述べた山口参事官は「本日ご来場いただいた機動隊員等を励ます会の中村理

事長をはじめ、ご来賓の方々にご臨席いただき、警備部武道始式を執り行うことができた。誠にありがとうございました。誠にありがとうございました。合気道・空手道演武、柔剣道の高点試合や武道小隊対抗試合をご覧いただき、ご来賓の皆様には、治安の最後の砦たる警備部員の鍛え上げられた体力・胆力を感じ取っていただけなら幸甚です。

警視庁は本年1月15日に創立150年を迎えた。諸先輩方が不断の努力によって築き上げてきた歴史と伝統、その責任の重さにあらためて思いを致すとともに私たちはこれらを昇華させ、次の時代に継承していかねばならない。

「昨今のように国内外の情勢が急速に複雑さを増すなか、あらたな治安課題にシなやかかつ積極果敢に対応していくことが求

められており、課された使命は大変重いものだと思っております。そのため私たち警備部一同はたゆみなく研さんを続け、一人ひとりの警備部門のプロフェッショナルとしての能力を磨き、組織として総合力を発揮し、国民の負託に応えていかねばならない」と述べた。

--- 今月の賛助広告会員 ---

- 玉造(株)
- 大阪製鐵(株)
- 東海鋼材工業(株)
- 山陽特殊製鋼(株)
- (株)ワークス
- 日鉄プロセッシング(株)
- 堀口商運(株)



剣道武道小隊対抗決勝



合気道演武



空手道演武



剣道優勝一機表彰状授与



柔道優勝三機表彰状授与



剣道優勝一機記念撮影



柔道優勝三機記念撮影

さっぽろ雪まつり警備 〈北海道警察〉



会場パトロールの状況

北海道の冬の風物詩「さっぽろ雪まつり」。

今年で74回目を迎え、2月4日から11日までの8日間、メインとなる札幌市中央区の大通会場とすさきの会場のほか、新型コロナウイルスの影響で中止が続いていた東区のとどろむ会場が4年ぶりに復活し、3会場あわせて196基の雪像と氷像が展示された。

コロナ禍を経て4年ぶりの全面開催となった今回の来場者数は、国内外から約233万9千人。コロナ禍前の273万7千人に近づき、外国人観光客も昨年より4割増増加するなど大きな賑わいを見せた。

大通会場では、北海道を舞台にした大ヒット人気マンガ「ゴールデンカムイ」を題材にした雪像など計5基の迫力のある

境の中、早朝から各種任務に従事し、不審者、不審物件に対する警戒・警備や各種事案対応を行ったほか、外国人を含む多くの観光客への地理教示や、路面凍結による転倒事故を防止するための砂まきを行うなど、来場者に大きな安心感を与えた。

長期間の雑踏警備であったが、各会場における大きな事件、事故の発生はなく、テロ等違法行為の未然防止を徹底し、その任務を完遂した。

大雪像を始め、市民雪像や芸術家による雪像彫刻の展示、夜には雪像のライトアップやプロジェクションマッピングなど光の演出も加わり、来場者は北海道の雪世界に大いに魅了された。

今回の雪まつり警備体制は、雑踏警備部隊をはじめ、交通対策、テロ対策部隊等多くの部隊で編成され、期間中の延べ動員数は警察官約2500人、自主警備員約2700人に及んだ。

道警機動隊は、警備の主力として最も人出の多い大通会場、地下街における遊動警戒、交通規制箇所等大型バスを配置しての車両突入阻止対策、警備大等の部隊を配置してテロ警戒を実施した。

各部隊員は、天候に恵まれながらも昼夜の気温差が大きい環



警察犬による警戒活動



大通西3丁目市民の広場「市民雪像」



大通西4丁目STV広場「ウボボイ×ゴールデンカムイ」

Member's Lounge 機動隊員等を励ます会 2月の朝食講演会

日本はデジタル化で遅れをとっているとされる。今回は「世界最高齢」プログラマーとして、IT技術を広く啓蒙するITエバンジェリストの若宮正子さんに、高齢化社会におけるデジタル改革の必要性についてご講演いただいた。



＜2月15日のゲスト＞
わかみやまさこ
若宮正子氏
ITエバンジェリスト

プロフィール

- 1935年 東京都生まれ
- 経歴**
- 高校卒業後、三菱銀行(現 三菱UFJ銀行)に定年まで勤務。シニア世代のサイト「一般社団法人メロウ倶楽部」の創設に参画(現在 副会長)。
- 2017年 ゲームアプリ[hinadan]を公開、米国アップルによる世界開発者会議「WWDC 2017」に特別招待 内閣府主催「人生100年時代構想会議」有識者メンバー
- 2018年 国連の社会開発委員会で基調講演
- 2021年 岸田首相主催「デジタル田園都市国家構想実現会議」構成員 デジタル庁主催「デジタル社会構想会議」「デジタルの日」検討委員会 構成員 台湾のデジタル担当大臣オードリー・タンとウェブ対談
- 2024年 内閣府/高齢社会対策大綱策定のための検討会構成員

主な喜書

- 「独学のススメ 頑張りなさい!」[定年後]の学び方10か条」中央公論新社
- 「昨日までと違う自分になる」KADOKAWA
- 「88歳、しあわせデジタル生活 一もつと仲良くなるヒント、教えます」中央公論新社 他

誰ひとり取り残さないデジタル改革を目指して

1. ITへの興味

私は1935年の生まれです。戦争が激しくなって学童疎開をし、ひもじさを我慢するのが子供時代の思い出でした。高校を卒業して銀行に勤めましたが、戦争が終わって10年が経っていても、いわゆるオフィスワークの世界はまったく機械化されていませんでした。計算はそろばん、お札を指で教え、インク壺にペン先をつけてお客様の通帳に名前を書いていました。私は日常生活にはあまり差し支えがありませんが、右手が動きにくいところがあるため、いつも先輩に叱られ「自分はダメなんだ」と思っていました。

そのうちにアメリカから事務機械や会計機が入ってくるようになり、どんどん高性能化し、ついにコンピュータの時代を迎えることになりました。すると手先がうまく動かないことは大きな問題ではなくなるわけですね。どんなに手先が器用な人でも、機械より早くお札を数えられる人はいないわけですから。コンプレックスから解放され、機械化やテクノロジーは私のような人間の味方であり、頼りになるものだと思えました。

その後、コンピュータがどんどん小型化し、ついにパソコンができた時、真つ先に買いました。当時は周辺機器を全て買わなければならず、非常に高価なものでした。どうやって使っていたのかもわかりません。入門書もありませんでした。パソコン教室がある時代でもないので、試行錯誤して独学で習得しました。

← 今月の賛助広告会員 →

- 芝本産業(株)
- 愛知産業(株)
- 日鉄テックスエンジニア(株)
- 豊田通商(株)
- 五十鈴(株)
- 日鉄鋼板(株)
- 富士興業(株)

2. ゲームアプリの開発から

スマートフォンの開発から始めました。を勝手に作り、あちこちで活動を始めました。

年寄りにはすくく使いにくいものです。80代になると指でスライドやスワイプにしてもスマートフォンが反応しません。そして、もう一つの不満が、高齢者が楽しめるようなゲームアプリがないことでした。そこで年寄りが喜びそうなアプリを作れば良いのではないかと、思いつきます。最初は若い人に作って欲しいと言ったのですが、作り方を教えるから自分で作りたいと言われ、「hinadan」という

(P.4へ続く)

(p.3からつづく)

アプリを作りました。これはひな壇の正しい並べ方を競うゲームです。どんなに年老いて手が震えていても、目が霞んでいても、ひな壇の並べ方を知っている人が絶対有利です。

このアプリを公開すると、アップル社の日本支社からメールが届きました。内容は「CEOがあなたを招待したいので、一緒にアメリカに行きましょう」というものでした。友達はガセメールに引っかけたんじゃないかと笑っていましたが、本当にアップル社のご招待でアメリカに行くことになり、CEOにもお会いしました。また、ニューヨークにも行き、国連で「高齢者にとつてのIT」というテーマでスピーチをする機会もありました。

内閣官房からは「人生100年時代構想会議」の有識者議員になりなさいという話がありました。高卒の私がとんでもないと断りましたが、ここで喋れば、大臣に聞いていただけるわけですから大切にしたいなと思います。以降、政府の仕事は熱心に行いました。2月1日付けで、内閣府主催の「高齢社会対策大綱策定のための検討会」の構成員になりました。今日もこのあと内閣で会議があり、そちらにお邪魔することになっていきます。高齢者の活性化にはITリテラシーやテクノロジーの知識が欠けていると、社会参加がうまくいきません。高齢者にもそういう機会を与えて欲しいと訴えていきたいと思っています。

3.「IT先進国」のデンマーク、エストニア

私は一昨年、デンマークで現地の在留邦人の方にお手伝いいただき、IT先進国の実情を勉強してきました。デンマークは電子国家、電子社会で、例えば官公庁や

自治体では紙を一切使いません。高齢者はうんざりしているんじゃないかと思いますが、国連のウェルビーイングランキングでは1位がフィンランドで2位がデンマークです。さらに政府や行政、社会は高齢者の自立を支援する時にも、なるべく機械を使つて自立してもらおうとします。家の中で機械化できるのは全て機械化し、天井から吊るしたゴンドラのようなものに乗って家中を移動できるようにするなどし、人間のヘルパーさんがやることを減らしています。たまたま日本から行つてきた実習生のヘルパーさんもいますが、介護では人を抱えて持ち上げる時にも必ず機械を使いなさい、そんなことをしているとあなたが腰を痛めて介護をされる側になりますよ」ということでした。

デンマークがこのように機械化を進めるのは、コロナ以降、財政の健全化のためにテクノロジーを使って人件費を節約しようとしているからです。また、デンマークでは老人クラブ連合会に強い発言権があり、ロビー活動も盛んです。政府や自治体を作るアプリは、高齢者が難しいスライドやスワイプが必要なアプリは作つてはいけないことになっていきます。これもロビー活動によるものです。私もこれから、どんどん発言していかなければと思っています。

エストニアも電子政府、電子社会で先端を切っている国の一つだと思えます。ロシアはウクライナの次にバルト三国を狙うのではないかといいことで、エストニアは非常に神経質になっています。隣国ロシアの脅威にさらされているので、レジリエンス(回復力・復元力・弾力)強化に非常に力を入れています。

どこの国にも国家の重要機密から個人情報まで、厳密な管理が必

要なデータがありますが、エストニアでは何かあれば、すぐに重要なデータを復元できるように考えられています。2007年に大規模なサイバー攻撃を受けた過去もあり、エストニアとルクセンブルクで、国家の重要なデータを預かり合う対策をしています。自分の国のデータを他の国に預けるといふのはかなり度胸が必要ですが、そこまで緊迫しているのだと思います。

エストニアで高齢者の意識調査をさせていたと、デジタル化がウェルビーイングに貢献したかという問いに93%がイエスでした。なぜかと聞くと、ある方は急に倒れて救急搬送された時に、マインバーカードの健康情報から心臓の既往歴があることがわかり、救急車の中で心電図をとり酸素吸入をして一命をとりとめたのですが、エストニアだから助かったということでした。

4.日本のITリテラシー

ひるがえつて我が国ですが、グランド3周分くらい遅れています。そういう実情を高齢者は理解していません。日本は年齢格差が大きく、60代くらいまではインターネットと接点がありますが、70代になるとガクッと減っています。どの国でも多少そういう傾向はありますが、日本のように極端に減るということはありません。

なぜ高齢者が使わないかという点、70歳以上の人は、自分の生活には必要ないと思つているというのが最も多く、二番目にどう使えばいいかわからない、三番目は必要があれば家族に任せればよいという理由です。現在、人工知能はGoogleが登場しましたが、例えば「インバウンドの人が神社仏閣に行った時の英語の注意事項を60ワード以内で作きなさい」というと、人工知能

が作ってくれます。これを英文のチラシにして配ることもできます。市役所や会社の事務の合理化にもすごく役立つのです。これからは、人工知能を使つて操作手順がいらないデジタル機器を開発していかなければいけないと思えます。スピーカーの音を大きくしてほしいとき、どこのボタンを押せばいいかと探すのではなく、「もっと大きくして」と言えば、「はい、大丈夫です」と言えは、音を出しますので大きくなったらOKと言ってください」と返事があり、自分がちよつどいいところをOKといえれば、その音にしてくれる。このようなこともできるよ

うになると思います。人間が人工知能の奴隷になつてしまつてはいないかという人もいますが、私はそうは思いません。人工知能は人間の脳の仕事のごく一部分しかできないわけです。人間には体があり、首から下がある生き物です。人工知能は人間の全てを体験できません。人工知能には「生きているから悲しいんだ」という歌の意味がわかつてもらえないと思うのです。人工知能は非常に有能な副操縦士ではあるけれど、機長ではないと私は思っています。どんなに人工知能が発達しても機長は自分自身なのです。

5.不確実な時代を生き抜く

これからの時代、自分で自分をデザインする時代だと思えます。私がいま大企業の現役の方に申し上げるのが、名刺の裏にハッシュタグをたくさん持つてほしいということです。名刺に表と裏があったら、表は〇〇株式会社という大きなフォルダの中に、〇〇支店というサブフォルダ、さらに例えば営業一部というサブフォルダがある。そうしたフォルダ型人間でいいけれど、名刺の裏では、ハッ

シユタグ型人間になつた方がいい。アラビア語が少しできる、書道ができる、踊りができる。そういうハッシュタグをどんどん増やしていくのです。この道一筋の名刺の表面にしかない人よりも、裏表の名刺を持った人が必要だと私は思っています。

私はエクセルアーティストと言つて、エクセルを使つて自分で柄をデザインしています。いろいろ柄を作り、画像化したものを3Dビルダーで立体化したり球体に貼り付けたりして、それをうちわにしたり巾着も作つたりしました。今着ているブラウスもエクセルでデザインしたものです。誰も評価してくれなくても、自分が面白ければいいと思つてやっています。普通に市販されているウインドウズの機能だけでできますから1円もかかりません。これは台湾のオードリー・タンさんとオンライントークショーをした時にすごく褒められました。

最後に、この不確実な時代をどう生き抜くかですが、行き先がわからないので短絡的な正解を求められません。100点主義もやめましょう。ベストでなくても、とりあえずベターでもいいんじゃないか。高齢の人はどうして自分の考えを他人に押し付けるのですが、こんな時代ですからその前にもつと学びが必要ではないかと思えます。

若い人は知識をたくさん持つています。私たち大人は過去の体験や仕事や生活、読書から得た精神的資産を持っています。新しい知識を消化して、発酵させ熟成させ、叡智や知恵ができてきます。人工知能と共存するためのキーワードは叡智や知恵だろうと私は思っています。

デジタル活用の国際比較について、アジア諸国と比べると日本固有の課題が見えるようにも思いますが、この点どのようにお考えでしょうか。

A 本日に日本が遅れているとつくづく思っています。例えば韓国では確定申告は自分で申告するのではなく、送られてきたデータをチェックしてOKボタン一つで済ませるのが当たり前です。マレーシアにも追い越され、おそらくアジアの中でかなり低いと思います。中近東の方々もITリテラシーが高いです。日本がガラパゴス化していて、日本だけで通用するやり方をしていっているのではないかと思っています。

Q エクセルアーティストが台湾のオードリー・タンさんの目に留まったのは、どういった経緯だったのでしょうか。

A 海外にも情報を発信していること、台湾にお邪魔した時に、台湾大学でエクセルアートのワークショップを行いました。台湾の方は私のことをよくご存知の方です。

編集後記

早いもので新しい年度が始まります。昨年度はコロナが5類に移行し、日常を取り戻す1年でしたが、能登半島地震の対応で多くの支部激励会や優秀機動隊員研修が中止を余儀なくされました。今年度も通常の活動に戻るべく準備を始めています。(励ます会事務局)

講演後質疑応答

- 今月の賛助広告会員 ←
- 日本製鉄株
 - 日鉄物産株
 - 日鉄建材株
 - 日鉄物流株
 - 住友商事株
 - 三和実業株
- (賛助広告募集中)